

みなとオアシスのトピックス

うばがみだいじんぐう と ぎよさい

姥神大神宮渡御祭を開催【みなとオアシス江差】

江差の8月は、江差町民にとって最も特別な月です。今年も8月9日(水)～11日(金・祝)の3日間、「みなとオアシス江差」の構成施設である「江差いにしえ街道」を舞台に町内13台の山車(通称:ヤマ)が供奉巡行する姥神大神宮の例祭が絢爛豪華に繰りひろげられました。

このお祭りの起源は、今からおよそ370年前と蝦夷地最古の祭りといわれており、北海道遺産にも指定されています。その年のニシンの大漁を神に報告し、感謝したのが始まりで、宝暦年間(1751～1764年)に作られた「神功山」という山車をはじめとする、武者人形、能楽人形、文楽人形、歌舞伎人形などを配した豪華な13台の山車が、歴史情緒あふれる「江差いにしえ街道」の巡業を皮切りに吹き流しや錦の御旗をひるがえし、流暢な祇園囃子の調べにのって町内を練り歩きます。

巡行中の笛や太鼓の祭り囃子もとてもにぎやかで、8人の白丁子がタイマツの火で参道をはき浄めるように駆け登り、それに続いて神輿も石段を駆け登る「宿入れ」は神輿が神社に戻る夜のハイライトで見る者、担ぐ者の熱気で溢れていました。

そして、この祭り最大のクライマックスは、なんと言っても11日の本祭り最後の夜です。昨年から11日が祭日(山の日)となったこともあり、人で溢れかえった沿道を横目に飛び跳ねる者や力まかせの太鼓が響き、いつしか太鼓も乱れ打ちとなり、人々の熱気と歓喜で大変な盛り上がりとなりました。

歴史とはるか遠い昔の江差のニシン景気を現代に伝える3日間の熱狂の大祭でした。



祭り囃子の様子



山車供奉巡行の様子(いにしえ街道)



本祭り最後の夜



「宿入れ」の様子